

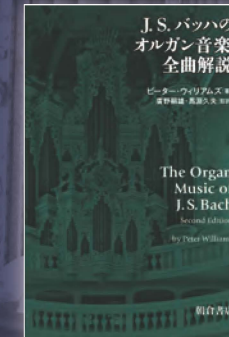
J. S. バッハのすべてのパイプオルガン曲（約310曲）を、
1曲ずつ、個別に解説！

J. S. バッハの オルガン音楽 全曲解説

一般社団法人
日本オルガニスト協会
推薦

ピーター・ウィリアムズ（元・デューク大学）[著]

廣野嗣雄（東京藝術大学名誉教授）・馬淵久夫（くらしき作陽大学名誉教授）[監訳]



♪作品番号（BWV）や曲名から引くことができ、年代、様式、真正性、賛美歌・礼拝・式文との関連、曲の構造、モチーフやテーマの解釈、バロック時代前後の作曲家・作品との関係などが、現存資料や異稿に基づいて詳細に考察されている
♪コラール作品では、すべてのコラールの旋律と口語訳で歌詞（第1節）を掲載

菊判（上製）／612頁 定価 13,200円（本体 12,000円）
978-4-254-68028-7 C3073

電子版の価格は最終ページをご覧ください。

■鈴木雅明氏 推薦！（バッハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）音楽監督）

長年にわたり私が繰り返し参照してきたP. ウィリアムズの名著がついに翻訳されたと聞いて、これほどうれしいことはありません。

本書は、バッハのオルガン全作品を網羅するだけでなく、チェンバロや声楽作品との比較、影響を受けた作曲家の考察、さらには演奏上の問題にまで踏み込んだ、驚異的な広がりや深さを持つ圧倒的な研究書です。著者の膨大な知識とつきることのない探究心が生み出したこの一冊は、オルガニストやバッハ愛好家のみならず、すべての音楽ファンにとって必携の書と言えるでしょう。

8

シューブラー・コラール集

Schübler-Choräle
BWV 645-650

1748/9? 年出版。表紙：

2つの手鍵盤とペダルを備えたオルガンで、前奏曲として演奏するためのさまざまな種類の6つのコラール。ポーランド国王兼ザクセン選帝侯宮廷作曲家、カペルマイスター兼音楽監督ヨハン・ゼバスティアン・バッハ作。ヨハン・タオルク・シューブラーにより、チューンゲンで出版。ライプツィヒのカペルマイスターであるバッハ氏、ペルリとハレの彼の手息たち、およびツェラの出版社から入手可能。

起源

6曲中5曲はライプツィヒ時代のカンタータのアリアを編曲したもので、うち3曲はコラール・カンタータである。オリジナルの調性はそのままだが、通奏低音部の変更は用いられず（協奏が使われていたためか?）、その和声のレアリゼーションもない。また649と650の弦のアーティキュレーションも採用されていない。BWV 650を除き、表奏曲のものではなく、コラールの1行目となっている。BWV 646のみカンタータが知られていないが、その理由は次の2通りに説明できるだろう。すなわち、オルガンイデオムをみると、本曲は何らかの理由でともともオルガン曲として書かれたが曲同様、この曲も現存しないカンタータの総譜を使用して書かれたという可能性である。部分出版用の筆写譜を準備したかは不明である。1747〜1750年の間に作曲家が同様にいくつかの修正を加えているものの、BWV 645、647、650の自筆譜がないため、な詳細について疑問が残る（KB pp. 130-4, 155）。《クラヴィア練習曲集第3部》と総譜は多数あるが、これらは直接または間接的に初版印刷譜に由来していると思われる。ためにこの形のコラールがつくられたことは、ほぼ疑いようがない。ウォルター・エメリーの指摘は、荒っぽいが重要な問題を提起している。

『《シューブラー・コラール集》の』編曲はオリジナルほどの強い印象は与えず、なぜこれを出版したのか、理解するのは難しい（Abraham 1986 p. 677）

これらのコラールは、BWV 528.1のようなバッハの他の編曲作品よりも、はるかに忠実である。作曲家自身の修正も、カンタータと初版のいくつかの相違点（注：スラーと同20小節の前打音、BWV 647の短縮された持続音、BWV 650の第1小節の「編曲」をつくった、あるいは認めたという重畳にはなっていない）と、それなりに有能な弟子の誰かによって、総譜から書き起こされたものかもしれない。ハレの仕事に関連して、W. F. バッハ、または依頼を受けた誰かが、カン

2. 18
7. HWV 599-644 オルガン小曲集
ているのだろう。このように彩られたイ長調の和音の配列は、単なる伝統的なカノンやドロン以上のものであり、「[はい] *dolce*」「喜び *jubilo*」の印象を明確に伝えてくれる。

BWV 609
Lobt Gott, ihr Christen, allzugleich (Orgelbüchlein)
すべてのキリスト者よ、みなで神をたたえよう（オルガン小曲集）

その他の筆写譜：J. T. クレープス、J. G. ヴォルター、J. C. オーライ、メンベル・ブレラー、C. F. ベンツェル、J. P. キルンベルガー、J. C. キッテルによる。または録音したもの。
二段階。

歌詞： N. ヘルマンによる8節のコラールの歌詞は1560年に出版され、一般的なクリスマスのコラールとなり、一部書物では2日目と3日目のためのものとなっている。

Lobt Gott, ihr Christen alle gleich, すべてキリスト者よ、みなで神をたたえよう。
in seinem höchsten Thron. その至高の主座におられる方を、
der heut schließt auf sein Himmelreich 今日、我は天のみ国を開け
und schenkt uns seinen Sohn. 私たちに御子をお与えくださる。
und schenkt uns seinen Sohn. 私たちに御子をお与えくださる。

さらに7つの節で、讃美、「開放」、御子の贈りものがくり返される。

旋律： 旋律は1580年にコラールとともに出版されたが、以前は別のテキストが存在した（Terry 1921 p. 259）。カンタータ第151番（器例117）やカンタータ第195番（別の歌詞）に登場し、BWV 375と376で和声付けされ、またBWV 732と732aにも取り入れられている。



P 283では、まず旋律が書かれ、次にバス（2つの大きな上界を含む）、その後内声部が書かれたように見える。これは標準の手順だろうか？
BWV 606と比較すると、コラールの内声部の動き、フィギュレーション、テクスチャが類似しているにもかかわらず、この曲は単一のモチーフの支配感がより少ない。BWV 609ではタイで結ばれた音符や休符が異符に少ないため、この曲の主要なモチーフは強拍 on-beat の16分音符の区別は、《オルガン小曲集》ではよくみられる。このコラールはめずらしく均質であり、その第2のモチーフ（テノールの2つ目の16分音符群）は別のコラール BWV 624でより完全に展開されている。
ペダル声部（P 283では内声部よりも前に作曲されたように見える）の突き進む16分音符は、

切り取り線

ご希望のお客様は、下記よりご確認ください。

J. S. バッハのオルガン音楽 全曲解説

同時アクセス数1(本体価):51,480円

同時アクセス数2(本体価):77,220円

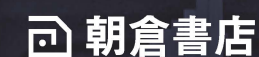
同時アクセス数3(本体価):102,960円

ProductID:KP00116929

販売対象機関:すべての機関

 KinoDen
Kinokuniya Digital Library

紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 Mail:ict_ebook@kinokuniya.co.jp

 朝倉書店

95
SINCE 1929

■「刊行にあたって」より抜粋

本書は、不朽の世界的名著“The Organ Music of J. S. Bach” I & II (Cambridge University Press, 1980) の改訂版 (Second edition, 2003) の全訳である。… (中略) …バッハの作品であることが不確実な作品を含め、全オルガン作品を扱っていること、そして全コラールの旋律、口語訳で歌詞の第1節を掲載している研究書は未だに他にない。また自筆譜、筆写譜その他の基礎データの提示、作品に関連するおびただしい研究書や論文の引用、オルガン作品はもとより、チェンバロ、室内楽、オーケストラ作品、カンタータや受難曲そのほか数多くの他作品との比較など、演奏家、研究者に限らず幅広い読者に向けて客観的情報を提供し、読むことを通して考えることを促してくれる内容が、本書の名著としての価値を高めている。時に独断と思える箇所もあるが、読者は、著者の尽きることのないバッハへの愛がバックグラウンドにあることを感じられるであろう。

○目次

第I部 自由作品

- 第1章 教会カンタータ131より BWV 131a
- 第2章 6つのソナタ BWV 525-530
- 第3章 前奏曲とフーガ BWV 531-552
- 第4章 8つの小前奏曲とフーガ BWV 553-560
- 第5章 その他の個別の作品 BWV 561-591
- 第6章 協奏曲など BWV 592-596

第II部 コラール作品

- 第7章 オルガン小曲集 BWV 599-644
- 第8章 シュープラー・コラール集 BWV 645-650
- 第9章 旧称「18のコラール」(いわゆるライブツィヒ・コラールとそのヴァイマル版) BWV 651-668
- 第10章 クラヴィーア練習曲集第3部のオルガン・コラール BWV 669-689
- 第11章 旧称「キルンベルガー・コレクション」のオルガン・コラール BWV 690-713
- 第12章 種々のオルガン・コラール BWV 714-765
- 第13章 コラール変奏曲(パルティータ) BWV 766-771
- 第14章 4つのデュエット(クラヴィーア練習曲集第3部より) BWV 802-805
- 第15章 種々の小品 BWV 943---1085
- 第16章 ノイマイスター・コラール集のオルガン・コラール BWV 1090-1120
- 第17章 さらなる作品(一部は出所不明) [監訳者注記] BWV 1128

付録

- 年表
- 用語解説
- 文献
- 自由作品索引
- コラール作品索引
- その他の作品索引
- 人名索引

■監訳者

- 廣野 嗣雄 東京藝術大学名誉教授
- 馬淵 久夫 くらしき作陽大学名誉教授

■訳者(五十音順)

- 浅井 寛子 カトリック麹町聖イグナチオ教会オルガニスト
- 大岩みどり 京都大学大学院博士前期課程、日本基督教団玉出教会オルガニスト
- 田川 真由 国際基督教大学大学院博士後期課程
- 徳田 佑子 青山学院大学、日本バプテスト同盟捜真バプテスト教会オルガニスト
- 中川 紫音 慶應義塾横浜初等部音楽科教諭、日本基督教団聖ヶ丘教会オルガニスト
- 早坂 牧子 東京音楽大学准教授
- 原田 真侑 所沢ミューズ第4代ホールオルガニスト
- 廣野 嗣雄 東京藝術大学名誉教授
- 美野 裕美 聖パウロ・インターナショナル・ルーテル教会オルガニスト

●組見本

